

以下は、国立国語研究所報告 121 『現代雑誌の語彙調査－1994 年発行 70 誌－』より抜粋・加筆したものである。

1 調査の概要

1.1 調査の目的

国立国語研究所においては、マスメディアにおける書き言葉を対象とした計量的な調査研究として、1956 年の雑誌 90 誌を対象とする調査研究、1966 年の新聞 3 紙を対象とする調査研究などが行われ、各方面で広く利用されてきた。

しかし、これらの調査からかなり時間が経過し、調査結果が現代に合わないようになってきた。本報告書で明らかにする語彙の実態は、1994 年発行の月刊誌であり、資料となった雑誌刊行時より 10 年が過ぎているが、今回の語彙表を公表することで、現代日本語の語彙の一側面を明らかにするだけでなく、前回の調査との比較によって、20 世紀後半の語彙の変化を概観することができる。

研究課題「現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築」における「現代雑誌 200 万字言語調査」の語彙調査は、書かれ読まれていることばに社会性と多様性を備えていると考えられる月刊雑誌を調査対象とし、現代の言葉誌面から標本として抽出し、用語、用字に関して計量的な調査・分析を行い、それらの実態を明らかにすることを目的としたものである。

本報告書においては、かつての雑誌 90 種調査で対象とした本文のほぼ 2 倍に相当する 200 万字分の本文を調査対象とし、分野と発行部数を考慮して選出した月刊雑誌 70 誌において（1.3 参照）、どのような語彙がどのくらい使用されるのかという実態を計量的に明らかにすることにより、現代日本の語彙の実態の一面を把握することを目的とした記述を行う。本報告書は、出現頻度 7 以上の約 97 万 3 千語についての語彙表である（注 1）。これは、記号を除く総語数約 106 万 4 千語の約 91%に当たる。

（CD-ROM 版注 1）本 CD-ROM 版に収めた語数は以下のとおり。

○全体

	延べ語数	異なり語数
自立語	738,377	59,222
付属語	327,240	175
全体	1,065,617	59,397

○本文・広告の別

	延べ語数	異なり語数
自立語・本文	555,720	51,297
自立語・広告	182,659	22,525
付属語・本文	290,797	166
付属語・広告	36,443	110

○ジャンル別

【自立語】

	延べ語数	異なり語数
総合・文芸	126,166	21,514
女性・服飾	139,522	19,881
実用	86,114	13,383
趣味・娯楽	289,991	30,240
芸術・科学	96,584	18,671

【付属語】

	延べ語数	異なり語数
総合・文芸	80,113	122
女性・服飾	73,308	114
実用	40,456	94
趣味・娯楽	92,925	115
芸術・科学	40,438	133

1.2 調査の対象

この調査研究は、元々、雑誌の言葉を対象とするものとして立案された。どのような経緯によって立案したか、また、実際の調査対象とする雑誌をどのような観点から決定したか、ということ、ここに記す。

1.2.1 調査の立案

この調査研究は、現代の書かれ読まれている言葉について、社会性を持った多様性がある領域を取り上げ、その全体像を計量的に把握することを目標として、立案した。

現代の書かれ読まれる言葉の研究は、様々な方面から行われてきている。国立国語研究所は、次において、大規模な対象を設定し、計量的な様相を探究した。対象及び報告書を挙げる。

- ・ 婦人雑誌 2 誌 1950 年分
婦人雑誌の用語 国立国語研究所報告 4 (1953 年)
- ・ 総合雑誌 13 誌 1953 年 7 月－1954 年 6 月分
総合雑誌の用語 前編 国立国語研究所報告 12 (1957 年)
後編 国立国語研究所報告 13 (1958 年)
総合雑誌の用語 国立国語研究所報告 19 (1960 年)
- ・ 成人向けで発行部数が多い雑誌 1956 年分
現代雑誌九十種の用語用字 第一分冊 総記および語彙表
国立国語研究所報告 21 (1962 年)

第二分冊 漢字表 国立国語研究所報告 22 (1963 年)

第三分冊 分析 国立国語研究所報告 25 (1964 年)

・新聞 3 紙 1966 年分

電子計算機による新聞の語彙調査 I 国立国語研究所報告 37 (1970 年)

II 国立国語研究所報告 38 (1971 年)

III 国立国語研究所報告 42 (1972 年)

IV 国立国語研究所報告 48 (1973 年)

現代新聞の漢字 国立国語研究所報告 56 (1976 年)

・高校理科・社会教科書 1974 年発行 及び 中学校理科・社会教科書 1980 年発行
高校教科書の語彙調査 国立国語研究所報告 76 (1983 年)

II 国立国語研究所報告 81 (1984 年)

中学校教科書の語彙調査 国立国語研究所報告 87 (1986 年)

II 国立国語研究所報告 91 (1987 年)

高校・中学校教科書の語彙調査 分析編 国立国語研究所報告 99 (1989 年)

・中央公論 1906 年－1976 年を 10 年ごとに 8 年分

雑誌用語の変遷 国立国語研究所報告 89 (1987 年)

これらの調査研究が取り上げた対象は、いずれも、個人的にやり取りされるものではない。印刷して広く社会に頒布されているものである。新聞はほとんどの人が日々、目にし、教科書は人生のあるところで必ず目にする。雑誌は、そのようなものと異なって、「だれもが」という言い方をすることはできないが、出版物として書籍に並ぶ地位を占める。印刷物のうちには個人的・私的なものが多数あるとしても、出版物は、関心を持った人々が対価を払って受け入れると出版社が判断した印刷物であり、その人々が不特定多数として想定されているという意味で社会性を持った出版物である。

個人的な材料よりは社会的な材料を調査研究の対象としたことには、幾つかの理由がある。積極的な理由としては、対象に、一過性よりは、定着して広く用いられているという性質を求め、もって、現代日本語の基盤を形成するものを見極めようとしたことが挙げられる。消極的な理由としては、個人的なものは、収集しにくい、あるいは収集して整理しても研究成果として発表しにくい、というようなことが挙げられる。

以上の調査研究が取り上げた対象は、文体・用語・用字などの多様性という点から見るならば、大きく二つに分けることができる。すなわち、一方、新聞や教科書においては、各紙・各書ごとにいわゆる表記の統一を行い、漢字の使用は、新聞社・出版社を超えて、常用漢字表の内に収められる。暗黙の方針となっていると推測されることとして、用語はいわゆる俗語を使用せず、文体はおおむね「だ・である体」である、といったこともある。他方、雑誌においては、出版社・雑誌・記事ないし執筆者においてそれぞれに文体・用語・用字の方針を持っているとしても、雑誌全体としての方針といったものは見られない。

多様性そのものを探究するのならば、材料としては、個人的なメモや手紙を取り上げるべきである。個人的な事象がどのように社会性を獲得するか、それもそれで重要な研究課題である。しかし、この調査研究は、書かれ読まれる言葉につ

いて、社会性を持っているであろう多様性を探究しようとする。

この調査研究の対象としては、雑誌のようなものが好ましいことになる。しかも、雑誌に匹敵する材料は考えられない。また、雑誌を対象として調査研究を行なうならば、『現代雑誌九十種の用語用字』と比較対照することにより、単独では獲得できない新たな知見を得ることを期待することができる。

以上のようにして立案された調査研究を、以下、雑誌言語計量調査と称することとする。

この報告書は、雑誌言語計量調査の全体を報告するものではないが、調査対象の設定に至るまでは、簡略ながら、雑誌言語計量調査に即して述べることとする。調査がねらっている目標の詳細は、調査対象について以下に述べるところによって、具体的に示すことになるであろう。

1.2.2 雑誌の概念

雑誌というのは必ずしも明確な概念ではない。しかし、雑誌とはどのようなものであるか、あるいは、少なくともこの雑誌言語計量調査で言う雑誌とはどのようなものであるかは、明らかにしておく必要がある。以下、雑誌言語計量調査で対象とする雑誌を選択するに至るまで、雑誌の概念を順次狭めてゆくが、内包を求めるよりは外延を絞る形で、しかも、雑誌でないものを排除してゆく形で、述べるを得ない。

雑誌の一覧としては次がある。後に述べるように調査対象を1994年1年間分としたが、種類の事柄を検討するには、前年の版によらざるを得ない。

・『雑誌のもくろく MAGAZINE LIST 1993年版』

雑誌目録刊行会（トーハンと日本出版販売とが交互に担当する）、1993年3月25日発行。

約2,840誌を誌名五十音順に掲載し、出版会社・判型・価格・発行期日などを記す。この年の版から、内容で10部門63分類に分けてキャッチフレーズを記した索引が付く。

・『出版年鑑 1993年版』

出版ニュース社、1993年4月20日発行。

約3,850誌を、日本十進分類法に基づく37分類によって掲載し、発行期日・判型・価格・出版社・創刊年を記す。

なお、雑誌部分のみを独立させたものが、『日本雑誌総覧』として出版されている。

・『雑誌新聞総かたろぐ JAPAN'S PERIODICALS IN PRINT 1993年版』

メディア・リサーチ・センター、1993年6月10日発行。

雑誌15,792誌を、内容によって6部門33分類187分野に分け、創刊期日・判型・発行期日・販売形態・価格・部数・出版会社・読者・内容紹介などを記す。

・『月刊メディア・データ 一般雑誌版』

メディア・リサーチ・センター発行。6月・11月発行号が一覧であり、他の号は、それに対して、創刊・休刊などを追補するものである。

雑誌ごとの広告料を示すのが主旨であり、併せて内容・読者・部数などを記す。読者・部数などの数値も『雑誌新聞総かたろぐ』より詳しい。広告を掲載する雑誌で発行部数が多いもの約 2,030 誌が、139 分野に分けられる。なお、『業界・専門版』には、業界・専門の雑誌が、新聞とともに掲載される。

以下、『雑誌のもくろく』『雑誌新聞総かたろぐ』は、単に『もくろく』『総かたろぐ』と呼ぶこととする。雑誌の全貌は、掲載数が最大である『総かたろぐ』によっても、なおつかみきることができないと言うべきである。

雑誌というものを定義することは、難しい。雑誌と境界を接する出版物として書籍・ムック・新聞があるが、それらとの関係を明確にすることも難しい。すなわち、形態や内容によっては、それらを区別し切ることができない。例えば、完結する予定を持たずに継続的に定期的に発行されるということは、雑誌の基本的な特徴であると考えられるが、その特徴は新聞も具える。しかも、新聞の縮刷版は、明らかに新聞でなく、恐らく雑誌である。また、「新聞」と銘打っていて見た目もいかにも新聞であっても、書店で雑誌の棚に並べられるものがある。

雑誌という一類の出版物が存在することは確かであるので、雑誌言語計量調査のために、暫定的に、トートロジーながら、雑誌の範囲を定めることとする。発行者が雑誌と認めたものが雑誌である。雑誌は、発行者（— 取次 — 書店）— 読者 という流通経路が幾つかあるうちで、固有の流通経路に乗るのが一般である。固有というのは、例えば書籍がこの流通経路に乗らず、書籍の流通経路が雑誌を乗せない、といった排他性である。

1.2.3 調査の計画規模

雑誌言語計量調査は、選択した雑誌から標本を抽出し、その標本の全体に文字・記号数延べ 250 万を得ることを目標とした。この文字・記号の量は、語を長い単位として考えるとき、延べ語数 60 万以上を書き記していると見込まれる。この延べ語数は、単位の設定が異なるので対比することができないが、1.2.1 に挙げた従来の語彙調査と比べて、中間的なところに位置するであろう。文字・記号の延べのうちに漢字が占める比率を 25%前後であるとすると、漢字数約 60 万である。この量も、1.2.1 の漢字調査と比べて、中間的なところに位置する。

総合雑誌の用字	報告 19	異なり 2,781	延べ 117,149
現代雑誌九十種の用語用字			
第二分冊 漢字表	報告 22	3,328	280,094
現代新聞の漢字	報告 56	3,213	991,375

標本は、後に述べるように、1 個の大きさを 1 / 16 ページとし、8 ページに 1 個の割合で標本を抽出した。標本 1 個から得られる文字・記号数を延べで 50 とすると、5 万標本、40 万ページが調査対象雑誌の全体となる。平均よりは厚手の月刊雑誌で 100 誌 1 年分の分量に、ほぼ相当する。

調査の規模を以上のように設定した理由は、人員・予算の都合である。調査の

年次は1994年1年間とし、すなわちその1年間に発行日付けをもつ雑誌を調査対象とした。この年次を設定した理由は、雑誌90誌の調査から適度に離れていること、及び予算の都合である。

調査対象の期間を1年間としたのは、季節の要因などによってものごとや言語が変動するが、それを吸収するためである。この考えかたは、1.2.1の国立国語研究所の諸調査研究に一貫して引き継がれてきている。

1.2.4 調査の対象

雑誌言語計量調査では、1.2.2に大雑把にとらえた雑誌のイメージに、以下のような条件を次々に加えることによって、雑誌を取捨選択し、対象として決定した。

まず、1.2.2と重複するが、雑誌としての認知について、条件(1)－(2)を設ける。いずれも満たされなければならない。

(1) 『月刊メディア・データ』『雑誌のもくろく』『日本出版年鑑』のうちの少なくとも一つに掲載されている。

『雑誌新聞総かたろぐ』に掲載されている全体が、雑誌全体の実態に近いであろうが、以下に設けるような条件を考えるならば、作業効率のうえで、この条件のようによい。

(2) 定期的に継続して刊行され、完結が予定されない。

週刊・隔週刊・月2回刊・旬刊・月刊・シーズン刊・隔月刊・季刊・年刊といった、定期の継続的刊行は、雑誌であることの基本条件のようなものである。ついでをもって言うならば、同一の名称・判型・ページ数・価格で、同一の記事構成で、継続するというのが、雑誌であることの基本条件であるようであり、ただし、これらの条件は新聞も備えている。継続するということは、完結を予定しないことを含みとすると思われるが、例えば、『もくろく』『総かたろぐ』に共に載る、『週刊朝日百科 動物たちの地球』（朝日新聞社出版局発行）は、全14巻全144冊で完結する。それは、この調査では対象として選択しない。

次に、この調査のために、条件(3)－(9)を設ける。この諸条件もいずれも満たされなければならないが、これがこの調査及び結果を特徴づけることになる。

(3) 書店で販売される。

書店では、だれでも、内容を確認めたり他と比べたりしたうえで、特別の手続きを必要としないで、雑誌を入手することができる。『もくろく』は、その雑誌の一覧である。これに対するものは、出版社などが読者に直接に販売するものであり、しばしば、読者は、一つの目的のもとに集団を形成している。一般に、1年間程度の予約をするので、発行のたびに書店に出向かなくともよいという便利さがある。日本経済新聞社グループからは、『日経……』という名称で多種の雑誌が発行されているが、多くは直接販売であり、この調査では選択しない。『家の光』（家の光協会発行）は、ABC公査で唯一100万部を越え続ける雑誌であるが、

農業協同組合（JA）を通して家庭に頒布される特殊性のために、この調査では対象として選択しない。

——注 ABC 公査 ABC は、Audit Bureau of Circulation 発行部数公査機関。新聞・雑誌に広告主が発行部数の公開を要求したことを受けて、1952 年、日本 ABC 協会が組織され、1960 年から数値が報告されている。公査は、発行会社の報告に対して、発行会社内の発行資料及び販売店の帳簿類を詳細に調査し、食い違いがないときに報告数値を認定する、というように行われる。参加しているのは、新聞・雑誌それぞれ 100 種前後である。

なお、特殊な書店でのみ販売されるものも排除し、(8) に述べる。

(4) 全国で販売される。

いわゆるタウン誌は、種類が多いが、この条件により、この調査では選択しない。テレビ番組ガイド誌などは、全国を 2 ないし 17 程度の地区に分けて版をも分け、版ごとに見るならば、この条件に合わないが、一つの名称のもとに内容もよく共通するので、全体ではこの条件にかなっていると見なす。

小売書店は、全国で約 28,000 店を数える。そのすべてに行き渡る必要はないであろうが、発行部数に条件を設けるときには、ヒントとなる数値である。発行部数については、後で考える。

(5) 雑誌が独立していて、文字がその主体である。

雑誌が独立しているというのは、新聞の複製であったり、放送のテキストであったり、しないということである。新聞の縮刷版や抜粋集成は、形態はともかく、内容は新聞そのものである。教育番組や趣味番組の放送テキストは、それ自体でも独立に読むことができる内容であるが、放送を前提とし、放送の補助であると考えるのがよい。日本放送出版協会の雑誌は、放送テキストとして多種発行され、またいずれも部数が多いが、この条件に合わないことにより、この調査では対象としてほとんど選択しない。

文字が雑誌の主体であるというのは、文字あるいは文章が、コミックにおけるように絵とともにしか存在しえなかったり、美術誌におけるように少なかったり、しないということである。コミック雑誌は、種類の多さ、発行部数の多さからするならば、雑誌界の雄であり、それを排除して雑誌を調査することは、実は雑誌調査の名を損なうものである。ただし、一つの雑誌のうちにも、漫画や絵や写真はあるものであり、その文字はやむを得ないものとして受け入れる。また、グラフ誌は選択せず、写真週刊誌は排除しないでおく。

何かの一覧が本文の主体となっているものも、採らないこととする。一覧は、一定の小さいスペースのなかに内容を盛り込むために、表現あるいは用字が特殊化している可能性がある。リクルートは、情報誌として、住宅・就職など種々のものを発行しているが、多くは、一覧を本文の本体とする。それらは、この調査では対象として選択しない。

雑誌の独立性、及び文字・文章の主体性を言うのは、用字について検討するときに、放送や絵を考慮するのが、技術的に厄介であるからである。漫画における用字の研究といったことは、別に大きく取り上げてよい問題である。

(6) 日本語でない言語で全文が記された記事を恒常的には含まない。

この調査が対象とする文字は、日本語を記したものであるとする。

ただし、広告などには、全文を英語やフランス語で記したものがあり、その程度であるならば、現在の日本の言語生活ないし読みの生活の一部として、むしろ無視することができないので、調査の対象とすることとした。

(7) 本文の内容が専門的でなく、読者も専門的職業集団でない。

一般雑誌・専門雑誌ということがよく言われるが、その二つに分けることは、実際には難しいところもある。しかし、大体のところでは、対立的な特徴を見いだすこともできないではない。内容が広いか狭いか、易しいか難しいか、というのが、二つに分ける基本であろうが、これを分けることは難しい。発行部数が多いか少ないかということも、ヒントぐらいにはなり、専門雑誌では10万部を越えることがまれである。もとより、逆は真ではない。一方、読者について性別・年齢を想定したり、あるいは職業を「会社員・OL・公務員・主婦・学生」のような枠で想定したりするのが、一般雑誌であり、他方、職業を「技術者・研究者・管理職・……業」のような枠で想定したり、従事年数を想定したりするのが、専門雑誌である、というとらえかたもできる。

(8) 読者の年齢を高校卒業以上とする。

幼稚園から高等学校までの、学習雑誌を中心とする雑誌は、それぞれの学年に応じて、使用語彙や常用漢字表にかかわる用字の制約があり、調査の結果に厄介な影響を与える。ただし、この条件については、社会人または大学生以上を主たる読者として想定しているが、高校生も読んでいる、というようなことは、差し支えないものとした。

逆に、18歳未満のものには販売されない性風俗雑誌も、排除した。一般の書店で購入することができないことも関係する。

(9) 1993年末まで3年間連続して発行されている。

雑誌の休刊・廃刊は、珍しいことではない。『総かたろぐ』は、1992年3月以降の約1年間について、創刊雑誌382誌の一覧を掲げるとともに、休刊雑誌482誌の一覧を掲げ、また改題雑誌137誌の一覧を添えている。調査対象として選択しても、途中で休刊などがあると調査上の扱いが複雑になるので、休刊はしないであろうというものを選択した。完全を期することはできないが、保証のような条件として、すぐ直前の3年間、きちんと発行されているかどうかを見る。3年間という数字には、保証としての何の根拠もないが、長期間の条件にすると、コンピュータ関係など最近の新しい事柄に対して創刊される雑誌を取り上げないことになり、短期間の条件にすると、販売の状態が変化する危険を背負うことになる。

以上によって得られる雑誌の数は、1,017である。これらのうちから、1.2.3の規模を勘案して、対象の取捨を行う。すなわち、以下に設ける条件(a)－(d)をその順序で適用し、一つが満たされれば他は満たされなくともよいものとした。ただし、必要な情報を得ることが困難であるために、これらの条件を確実に適用しうるか、適用した結果が妥当であるか、問題を残している。

(a) 内容によって分類し、その各分類のうちにおいて、発行部数が多い。

分類に当たっては、『もくろく』『総かたろぐ』『月刊メディア・データ』における各誌の特徴の記述を参考にし、発行部数も含めて『月刊メディア・データ』

によるところが大きい。発行部数が多いというのは、各分類のうちにおいて、上位 1 / 4 ないし 1 / 2 程度までにあることを目安とした。

(b) 発行部数が、ABC 公査で 16 万以上、公称で 24 万以上である。

日本では ABC 公査が尊重されないため、発行部数については、ほとんど発行会社の公称によらざるを得ない。発行会社が公称するものは、最大時の印刷部数であったり、理想ないし目標の発行部数であったりして、実際より多いと考えられ、実際の 10 倍くらいになっているものもあるかもしれない。実際を公称から推測することはできないが、一応、公称の 2 / 3 であるとして処理した。

この部数の条件の数値は、なんらかの根拠があつて設けたものではない。幾通りかの数値のうちから、調査規模及び条件 (a) (c) との関係で、ここに落ち着いたものである。

(c) 創刊号の発行日付が 1954 年 12 月 31 日以前であり、発行部数が公称で 10 万以上である。

この発行継続年数及び部数の数値も、調査規模及び他の条件との関係で、ここに落ち着いたものである。

(d) 以上で選択した雑誌に関連して、なんらかの点で参照したい。

特に、『現代雑誌九十種の用語用字』調査で採用されたものは、条件 (a) - (c) を満たさなくとも、またそもそも条件 (1) - (9) を満たさなくとも、一応の調査対象とした。

この (a) - (d) によって絞り込まれた雑誌の数は、411 である。その一覧を『月刊メディア・データ』の分類によって掲げる。分類ごとに、条件 (1) - (9) に適合した雑誌数、条件 (a) - (d) で選択した雑誌数、条件 (a) - (d) ごとの雑誌数を示す。分類内で掲げる雑誌の順序は、適当なまとまりを持たせようとはしたが、徹底していない。雑誌個個は、誌名・出版社に併せて、選択された条件 (a) - (d)、この調査のために与えた雑誌番号、年間発行頻度、1994 年の年間総ページを示す。年間総ページを数えたのは一部についてであり、ページの数えかたは 1.4 に述べる。

ゴシックで示したものが 70 誌あり、この報告でその語彙を計量したものである。

ここに挙げた雑誌 411 は、選択条件 (a) - (d) で見るならば、次のようである。

a	b	c	d
272 誌	69	17	53

また、年間発行頻度で見ると、次のようである。

52	毎週	26	隔週	24	月 2 回	12	毎月	6	隔月	4	毎季	その他
38	誌	8		36		287		22		17	3	

次ページに上記の基準により選択された雑誌の一覧を掲げる。ゴシックで示したもの（注 2）が、実際に調査対象となった雑誌である。

(CD-ROM 版注 2) このテキストファイルでは、ゴシックで示す代わりに雑誌番号の後に◆を付した。

1. 2. 5 選択雑誌一覧

分類	条件 (1) - (9)	適合数	選択数 (選択理由 a-d 誌数)	
選択理由	雑誌番号	雑誌名	発行所	年間発行頻度 総ページ
101A	週刊誌 総合	18	17 (a 7 b 9 d 1)	
a	251	週刊文春	文芸春秋	52
a	191	週刊ポスト	小学館	52
a	141	FRIDAY (フライデー)	講談社	52
a	106	週刊朝日	朝日新聞社	52
a	101	AERA	朝日新聞社	52
b	201	FOCUS (フォーカス)	新潮社	52
b	156	週刊宝石	光文社	52
b	196	週刊新潮	新潮社	52
b	136	週刊現代	講談社	52
b	151	FLASH (フラッシュ)	光文社	52
b	241	SPA! (週刊SPA)	扶桑社	52
b	286	週刊読売	読売新聞社	52
b	271	サンデー毎日	毎日新聞社	52
d	211	Newsweek (ニューズウィーク日本版)	TBSブリタニカ	52
a	166	週刊時事	時事通信社	52
a	226	週刊アサヒ芸能	徳間書店	52
b	246	週刊大衆	双葉社	52
101B	週刊誌 女性	5	5 (a 2 b 3)	
a	146	女性自身	光文社	52
a	186	女性セブン	小学館	52
b	181	週刊女性	主婦と生活社	52
b	281	fashion weekly an-an	マガジンハウス	52
b	361	微笑	祥伝社	24
101C	週刊誌 娯楽・芸能	3	3 (a 2 b 1)	
a	171	WEEKLY プレイボーイ	集英社	52
b	231	週刊実話	日本ジャーナル出版	52
a	307	週刊小説	実業之日本社	26
102A	総合誌	30	18 (a14 c 2 d 2)	
a	391	BIWEEKLY 話のチャンネル	日本文芸社	24
d	340	VIEWS (ビューズ)	講談社	24

a	745◆文藝春秋	文藝春秋	12	7056
a	512 潮	潮出版社	12	4884
a	522◆Esquire 日本版 エスクァイアマガジンジャパン		12	2072
a	578◆宝石	光文社	12	4752
a	748◆太陽	平凡社	12	2176
a	568◆現代	講談社	12	4304
a	561 現代展望	現代展望	12	
c	510◆世界	岩波書店	12	4680
c	657 中央公論	中央公論社	12	5426
a	713 Voice (ボイス)	PHP研究所	12	3282
a	746 MARCO POLO (マルコポーロ)	文芸春秋	12	
a	801 へるめす	岩波書店	6	
a	710 THE 21 (月刊ざ・にじゅういち)	PHP研究所	12	1376
a	549 政財界ジャーナル	行政通信社	12	660
a	628 政界往来	政界往来社	12	1078
d	813 Switch スイッチ・コーポレーション/扶桑社		6	
102B	娯楽・読物	76 46 (a32 b 8 c 1 d 5)		
a	418 popeye (ポパイ)	マガジンハウス	24	
b'	761 特選街	マキノ出版/特選街出版	12	2780
a	630◆月刊 BIG tomorrow (ビッグ・トゥモロウ)			
		青春出版社	12	2444
a	556 ザ・ベスト MAGAZINE	KK ベストセラーズ	12	2304
a	364 スコラ	スコラ	24	
b	379 宝島	宝島社	26	
b'	569 CHECK MATE (チェックメイト)	講談社	12	2762
b'	415 Tarzan	マガジンハウス	24	
b'	511 STUDIO VOICE	インファンス/流行通信社	12	1280
a	430 mono (モノ・マガジン)	ワールドフォトプレス	24	
a	600 MEN'S NON-NO (メンズノンノ)	集英社	12	
b'	721 FINEBOYS (ファインボーイズ)	日之出出版	12	2422
a	343 Hot-Dog PRESS (ホットドッグプレス)	講談社	24	
b'	598 PLAYBOY 日本版	集英社	12	2486
a	758 WOoooo!			
	マガジンエンタテインメント/マガジン・マガジン		12	
d'	599 Myojo (明星)	集英社	12	
b	632 DoLiVe (月刊 ドリブ)	青人社	12	2352
a	587 ミスターダンディー	サンデー社	12	2416
a	382 特冊新選組	竹書房	24	
a	668 問題実話	桃園書房	12	2880
a	586 SEXY LOOK	サン出版	12	1200
a	631 月刊おとこの遊び専科	青人社	12	2234
d	642 特選小説	綜合図書	12	4056

a	518	デラベっぴん	英知出版	12	1696
a	805	おとなの特選街	KK ベストセラーズ	6	
a	782	おとこの遊艶地	マクセル出版/リイド社	12	
a	358	DIME (ダイム)	小学館	24	
a	355	サライ	小学館	24	
d	714	歴史街道	PHP 研究所	12	1776
a	535	◆月刊カドカワ	角川書店	12	4796
c	667	小説 CLUB	桃園書房	12	4296
a	597	小説すばる	集英社	12	5626
a	621	◆小説新潮	新潮社	12	5942
a	674	◆問題小説	徳間書店	12	5112
a	839	別冊文芸春秋	文芸春秋	4	
a	742	オール読物	文芸春秋	12	5932
a	736	小説推理	双葉社	12	4864
d	579	小説 宝石	光文社	12	4992
a	316	Sports Graphic Number (ナンバー)	文芸春秋	26	
a	514	丸	潮書房	12	3240
a	641	◆Begin (ビギン)	世界文化社	12	2420
a	700	歴史 Eye (アイ)	日本文芸社	12	1776
a	679	◆日経アントロポス	日経ホーム出版社/日本経済新聞社	12	1752
a	618	◆歴史読本	新人物往来社	12	3504
d	502	歴史と旅	秋田書店	12	4078
a	812	人物往来	新人物往来社	6	
102C		農家・園芸	9	4 (a 2	d 2)
a	617	盆栽世界	新企画出版局	12	1776
a	810	園芸ガイド	主婦の友社	6	
d'	637	農耕と園芸	誠文堂新光社	12	3052
d'	507	家の光	家の光協会	12	
102D		マスコミ	6	-	
103		女性総合誌	53	42 (a20	b18 c 3 d 1)
a	352	non-no (ノンノ)	集英社	24	
a	577	JJ (ジェイ・ジェイ)	光文社	12	
a	570	ViVi (ヴィヴィ)	講談社	12	4096
a	629	◆SAY (月刊セイ)	青春出版社	12	2476
a	608	Ray (レイ)	主婦の友社	12	3728
b	533	FYTTE (フィッテ)	学習研究社	12	
b	720	Fine (ファイン)	日之出出版	12	2432
b	528	SIGN (サイン)	学習研究社	12	2552
b'	594	MONIQUE (モニク)	実業之日本社	12	2346
b'	373	ELLE JAPON (エルジャポン)	タイムアシェットジャパン	24	

b'	575	CLASSY. (クラッシィ)	光文社	12	2884
b'	640	miss (ミス家庭画報)	世界文化社	12	3286
b'	605	ef (月刊エフ)	主婦の友社	12	2908
a	611	Can Cam (キャンキャン)	小学館	12	
a	367	oz magazine (オズマガジン)	スターツ出版	24	
b	648	Cutie (キューティ)	宝島社	12	1568
a	566	◆with (ウィズ)	講談社	12	5292
a	601	◆MORE (モア)	集英社	12	5390
a	603	JUNON (ジュノン)	主婦と生活社	12	2360
a	602	◆LEE (リー)	集英社	12	3838
a	639	◆家庭画報	世界文化社	12	5168
b	542	◆マダム (MADAM)	鎌倉書房	12	2916
b	595	COSMOPOLITAN (コスモポリタン日本版)	集英社	12	2456
b	729	◆婦人画報	婦人画報社	12	4928
b	741	◆ミセス	文化出版局	12	4172
c	658	◆婦人公論	中央公論社	12	5700
c	733	婦人之友	婦人之友社	12	2574
c	607	主婦の友	主婦の友社	12	2960
b'	743	CREA (クレア)	文芸春秋	12	2600
b'	680	NIKKEI WOMAN			
		日経ホーム出版社/日本経済新聞社		12	2200
a	661	◆FIGARO japon (フィガロジャポン)			
		TBSブリタニカ		12	2538
a	701	H20 (エイチツーオー)	日本放送出版協会	12	1968
a	412	クロワッサン (croissant)	マガジンハウス	24	
a	604	◆すてきな奥さん	主婦と生活社	12	3488
a	513	pumpkin (月刊パンプキン)	潮出版社	12	1656
a	571	MINE (マイン)	講談社	12	
b'	671	花時間	同朋舎出版	12	2358
d	788	VISIO mono (月刊ビジオ・モノ)			
		ワールドフォトプレス		12	1944
a	734	◆ESSE (エッセ)	フジテレビジョン/扶桑社	12	3450
b	322	レタスクラブ (Lettuce Club)			
		SS コミュニケーションズ		24	
b'	606	Como (コモ)	主婦の友社	12	2968
a	328	オレンジページ (ORANGE PAGE)	オレンジページ	24	
104		グラフ誌	2	2 (a 1	c 1)
a	111	アサヒグラフ		朝日新聞社	52
c	276	毎日グラフ		毎日新聞社	52
105A		コミック・実話	2	2 (a 2)
a	388	特ダネ最前線		日本文芸社	24
a	652	月刊実話ニッポン		ブック工房/竹書房	12 2640

106A	女性ファッション	22	8 (a 7 b 1)		
	b' 409 CLiQUE (クリーク)	マガジンハウス	24		
	a 727◆25ans (ヴァンサンカン)	婦人画報社	12	5404	
	a 728 Vingtaine (ヴァンテース)	婦人画報社	12	3456	
	a 837 美しいキモノ	婦人画報社	4		
	a 541 ドレスメーカーキング・マダムのスタイルブック	鎌倉書房	12		
	a 740◆so-en (装苑)	文化出版局	12	2558	
	a 785 流行通信	流行通信社	12	2158	
	a 832 ヘア&メイク (HAIR & MAKE)	主婦と生活社	4		
106B	男性ファッション	4	3 (a 2 b 1)		
	a 615 Boon (ブーン)	祥伝社	12	2898	
	a 730◆monthly MEN'S CLUB (メンズクラブ)	婦人画報社	12	3332	
	b' 576 Gainer (ゲイナー)	光文社	12	2460	
106C	手芸・編み物	5	2 (a 2)		
	a 816 毛糸だま	日本ヴォーグ社	6		
	a 817 パッチワークキルト通信	パッチワーク通信社	6		
107A	家庭誌	3	1 (a 1)		
	a 614◆マフィン (Muffin)	小学館	12	3192	
107B	料理・食品・食堂・喫茶	8	3 (a 3)		
	a 827 オレンジページ COOKING	オレンジページ	4		
	a 616◆栄養と料理	女子栄養大学出版部	12	2662	
	a 738 dancyu (ダンチュウ)	プレジデント社	12	2096	
107C	ハウジング・インテリア・ガーデン	17	7 (a 7)		
	a 704 ニューハウス	ニューハウス出版	12	3672	
	a 735◆新しい住まいの設計	扶桑社	12	3994	
	a 531 ハウス&ホーム (家 部屋)	学習研究社	12	2234	
	a 819 BISES (私の部屋ビズ)	婦人生活社	6		
	a 809 美しい部屋	主婦と生活社	6		
	a 811 PLUS 1 (ぷらすわん)	主婦の友社	6		
	a 821 マンション・アイ	有朋社	6		
107D	赤ちゃん・育児	5	4 (a 2 b 2)		
	a 731◆ベビーエイジ (BABY AGE)	婦人生活社	12	3060	
	a 609 わたしの赤ちゃん	主婦の友社	12	3290	
	b' 732 マタニティ (Maternity)	婦人生活社	12	2196	
	b' 613 P. and (ピー・アンド)	小学館	12	2444	
107E	保健衛生・医学・年金・老後生活	9	4 (a 4)		
	a 820 やさしい手	婦人生活社	6		
	a 760◆安心	マキノ出版	12	3642	
	a 757 壮快	マイヘルス社/講談社	12	3554	
	a 610 わたしの健康	主婦の友社	12	3470	
108A	観光・旅行・レジャー	16	5 (a 5)		

a	688◆旅	J T B 日本交通公社出版事業局	12	2892
a	786◆旅行読売	旅行読売出版社	12	3200
a	563 旅の手帖	弘済出版社	12	2592
a	689 るるぶ	J T B 日本交通公社出版事業局	12	2314
a	814 FIELD GEAR (フィールド・ギア)	徳間書店	6	
108B 交通時刻表 - -				
109A スポーツ ゴルフ 15 13 (a 4 b 9)				
a	161 週刊ゴルフダイジェスト	ゴルフダイジェスト社	52	
b	131 ASAHI golf WEEKLY (週刊アサヒゴルフ)	広済堂出版	52	
b	121 週刊パーゴルフ	学習研究社	52	
a	581◆GOLF DIGEST	ゴルフダイジェスト社	12	2914
a	370 ALBA TROSS-VIEW スタジオ・シップ/毎日新聞社		24	
a	532 PAR GOLF (パーゴルフ)	学習研究社	12	
b	696 Golf Classic (ゴルフクラシック)	日本文化出版	12	1976
b	750 GOLF MAGAZINE	ベースボール・マガジン社	12	1628
b'	693 Niblick (ニブリック)	日本スポーツ企画出版社	12	1744
b'	808 Choice (チョイス)	ゴルフダイジェスト社	6	
b'	840 GOLF MAGAZINE ILLUSTRATED (ゴルフマガジンイラストレイテッド)	ベースボール・マガジン社	4	
b	564 Golf for Ladies' (アサヒゴルフレディス)	広済堂出版	12	1680
b	830 VERT (ヴェール)	学習研究社	4	
109B スポーツ ベースボール 6 3 (a 2 b 1)				
a	261 週刊ベースボール	ベースボール・マガジン社	52	
a	841 ベースボールマガジン	ベースボール・マガジン社	4	
b	815 プロ野球 a i (アイ)	日刊スポーツ出版社	6	
109C スポーツ テニス 6 4 (a 2 b 2)				
a	697◆Tennis Classic (テニスクラシック)	日本文化出版	12	1936
a	406 テニスマガジン	ベースボール・マガジン社	24	
b	530 T. Tennis (ティーティー)	学習研究社	12	1916
b	692 スマッシュ (Smash)	日本スポーツ企画出版社	12	1704
109D スポーツ 登山・ハイキング・スキー 12 8 (a 5 c 1 d 2)				
a	626◆SKI journal (月刊スキージャーナル)	スキージャーナル	12	3096
a	709 SKI GRAPHIC (月刊スキーグラフィック)	ノースランド出版	12	2698
a	778◆山と溪谷	山と溪谷社	12	3692
c	670 岳人	東京新聞出版局	12	2368
d	752 SKIING MAGAZINE	ベースボール・マガジン社	12	1228

a	823	skier (スキヤー)	山と溪谷社	8	
a	822	Bob Ski (ボブ・スキー)	学習研究社	8	
d	824	ski (ブルーガイド・スキー)	実業之日本社	7	
109E		スポーツ 海洋・水泳	17	7 (a 6	d 1)
a	762	SURFIN' LIFE (月刊サーフィンライフ)	マリン企画	12	2136
a	622	Marine Diving (マリンダイビング)	水中造形センター	12	
a	763	diving world (ダイビングワールド)	マリン企画	12	3552
a	764	Hi-Wind (ハイ・ウインド)	マリン企画	12	2488
a	534	KAZI (舵)	舵社	12	4608
a	751	SWIMMING & WATER POLO MAGAZINE (スイミング&ウォーターポロ・マガジン)	ベースボール・マガジン社	12	1260
d	590	JET DREAM	ジェットドリーム/星雲社	12	
109F		スポーツ その他	54	22 (a15 b 2 c 2 d 3)	
a	236	週刊ゴング	日本スポーツ出版社	52	
b	256	週刊プロレス	ベースボール・マガジン社	52	
a	555	競馬最強の法則	KK ベストセラーズ	12	1680
a	529	City Runner (シティランナー)	学習研究社	12	1630
a	755	陸上競技マガジン	ベースボール・マガジン社	12	3454
d	780	ランナーズ (RUNNERS)	ランナーズ	12	2454
d	774	CYCLE SPORTS (サイクルスポーツ)	八重洲出版	12	4100
a	698◆	月刊バスケットボール (BASKETBALL)	日本文化出版	12	3400
a	699◆	VOLLEYBALL (月刊バレーボール)	日本文化出版	12	2224
a	754	ラグビーマガジン	ベースボール・マガジン社	12	1976
a	749	American Football Magazine	ベースボール・マガジン社	12	1512
b	331	STRIKER (ストライカー)	学習研究社	24	
a	802	別冊 NHK ウィークリーSTERA 大相撲特集	日本放送協会/NHK サービスセンター	6	
a	694	WORLD BOXING	日本スポーツ出版社	12	1568
a	403	格闘技通信	ベースボール・マガジン社	24	
a	625	月刊剣道日本	スキージャーナル	12	2000
a	723	月刊空手道	福昌堂	12	1476
c	753	相撲	ベースボール・マガジン社	12	2128
c	779	大相撲	読売新聞社	12	1972
d	672	BiCYCLE CLUB (バイシクルクラブ)	東邦出版社/樫出版社	12	
a	695◆	優駿	日本中央競馬会内「優駿」編集部	12	2240
a	612◆	BE-PAL (ビーパル)	小学館	12	3510
110A		自動車	61	25 (a18 b 6 c 1)	

a	573◆CAR トップ	交通タイムス社	12	3608
a	558 ヤングオート (YOUNG AUTO)	芸文社	12	3208
a	582 OPTION (おぶしょん!)	三栄書房	12	5344
a	707◆Daytona (デイトナ)	ネコ・パブリッシング	12	2920
a	644 F1 グランプリ特集 (GRAND PRIX)	ソニー・マガジズ	12	1704
a	424 driver (ドライバー)	八重洲出版	24	
a	677◆月刊自家用車	内外出版社	12	4336
a	706 Tipo (ティーポ)	ネコ・パブリッシング	12	2400
a	773 CARBOY	八重洲出版	12	5640
a	421 ホリデーオート	モーターマガジン社	24	
a	654 4WD-EX (月刊4WD エクスプローラー)	辰巳出版	12	2192
a	673 RV MAGAZINE (月刊アールブイ・マガジン)	徳間書店	12	3664
a	768 NEW MODEL MAGAZINE X ムックハウス/三栄書房		12	1584
a	572 av Active Vehicle (アクティブビークル)	交通タイムス社	12	2704
a	676 オートメカニック	内外出版社	12	2928
a	678◆CG CAR GRAPHIC	二玄社	12	4252
a	633 外車情報 WHIZZMAN (ウィズマン)	成美堂出版	12	
b	376 CAR and DRIVER 日本版	ダイヤモンド社	24	
b	559 Jr.ヤングオート (JUNIOR YOUNG AUTO)	芸文社	12	2720
b	574 yv YOUNG VERSION (ヤングバージョン)	交通タイムス社	12	3008
b	638 Car Ex (カー・イーエックス)	世界文化社	12	2034
c	583 Motor Fan	三栄書房	12	2978
b'	589 Auto Route (オートルート)	日本自動車連盟/JAF 出版社	12	1776
b'	675 4WD FREAK	徳間書店	12	3850
a	349 ベストカー	三推社/講談社	24	
110B	オートバイ	16	6 (a 5	d 1)
a	770 オートバイ	モーターマガジン社	12	7300
a	584 モトチャンプ	三栄書房	12	4272
a	775◆モーターサイクリスト	八重洲出版	12	5880
a	772 GOGGLE (ゴーグル)	モーターマガジン社	12	2796
a	767 OutRider (アウトライダー)	ミリオン出版/大洋図書	12	1504
d	776 別冊 MOTOR CYCLIST	八重洲出版	12	3202
110C	オートスポーツ	9	4 (a 2	d 2)
a	394 RACING ON (レーシングオン)	ニューズ出版	26	
a	346 AUTO SPORT (オートスポーツ)	三栄書房	24	
d	702 RIDING SPORT (ライディングスポーツ)			

		ニューズ出版	12	1918
	d 703	REV SPEED (レブスピード)	ニューズ出版	12 2728
111A	趣味 囲碁・将棋	6 5 (a 3		d 2)
	a 685◆	囲碁クラブ	日本棋院	12 1998
	a 686	棋道	日本棋院	12 2036
	a 690◆	将棋世界	日本将棋連盟	12 3128
	d 687	レッツ碁	日本棋院	12 1368
	d' 635	囲碁	誠文堂新光社	12 1728
111B	趣味 ペット・愛玩動物	7 4 (a 3		d 1)
	a 765	フィッシュマガジン (FISH MAGAZINE)	緑書房	12 5272
	a 705◆	猫の手帖	猫の手帖社	12 2136
	a 634	愛犬の友	誠文堂新光社	12 7888
	d 836	動物ファミリー	猫の手帖社	4
111C	趣味 つり	16 5 (a 5)
	a 176	週刊釣りサンデー	週刊釣りサンデー	52
	a 385	隔週刊つり情報	辰巳出版	24
	a 660◆	つり人	つり人社	12 3152
	a 337	Fishing (フィッシング)	広済堂出版	24
	a 565	Angling (アングリング)	広済堂出版	12 2032
111D	趣味 無線・模型	13 6 (a 4		d 2)
	a 663◆	ラジコン技術	電波実験社	12 4624
	a 585	ラジオライフ	三オブックス	12 4000
	a 588	CQ ham radio	CQ 出版社	12 6798
	d 777	RC magazine (ラジコンマガジン)	八重洲出版	12 3536
	d 501	ラジオ技術	アイエー出版/インプレス販売	12 2408
	a 759	アクションバンド電波	マガジンランド	12 2748
111E	趣味 乗り物	4 2 (a 2)
	a 662	鉄道ジャーナル	鉄道ジャーナル社	12 1984
	a 708	Rail Magazine (レイル・マガジン)	ネコ・パブリッシング	12
111F	趣味 航空	6 2 (a 2)
	a 747	航空ファン	文林堂	12 2368
	a 508◆	Airline (月刊エアライン)	イカロス出版	12 1840
111G	趣味 コンピュータゲーム	- -		
111H	趣味 その他	24 8 (a 5 b 2		d 1)
	a 397	パチンコ必勝ガイド	白夜書房	24
	a 717◆	月刊パチスロ必勝ガイド	白夜書房	12 1584
	b 400	パチンコ攻略マガジン	双葉社	24
	b' 653	パチプロ必勝本	辰巳出版	12 1596
	a 580	GUN	国際出版	12 2584
	a 636◆	月刊天文ガイド	誠文堂新光社	12 3152
	a 656	茶道誌淡交	淡交社	12 2838

d	543	茶道雑誌	河原書店	12	2088
112A	映画・ビデオ	14	9 (a 4	c 1	d 4)
a	781	アクトレス (ACTRESS)	リイド社	12	1776
d	560	ビデオ SALON	玄光社	12	3120
a	539	PREMIERE	角川書店	12	1320
c	334	キネマ旬報	キネマ旬報社	24	
d'	551	近代映画	近代映画社	12	2010
d'	552	スクリーン (SCREEN)	近代映画社	12	2856
a	665	Audio Video (月刊オーディオビデオ)	電波新聞社	12	
a	716	FLIX (フリックス)	ビクターエンタテインメント	12	1502
d	527	VIDEO CAPA (月刊ビデオキャパ)	学習研究社	12	1584
112B	芸能・演劇	8	2 (a 2)
a	649◆	歌劇	宝塚歌劇団	12	2008
a	650	宝塚グラフ	宝塚歌劇団	12	
112C	テレビ・ラジオ放送	11	7 (a 3	b 2	d 2)
a	126	週刊ザテレビジョン 全14版	角川書店	52	
b	216	週刊TVガイド 全17版	東京ニュース通信社	52	
b	116	NHK ウィークリーSTERA (ステラ)	NHK サービスセンター	52	
d	550	BS fan (月刊ビーエス・ファン)	共同通信社	12	2428
a	313	FMステーション 全6版	ダイヤモンド社	26	
a	310	TeLePAL	小学館	26	
d	537	TV cosmos (月刊テレビコスモス)	角川書店	12	
113	音楽・楽器・レコード	43	17 (a13	c 1	d 3)
a	722	FOOL'S MATE (フールズメイト)	フールズメイト	12	1828
d	828	季刊バレエの本	音楽之友社	4	
a	624◆	Swing JOURNAL	スイングジャーナル社	12	4274
a	787	rockin'on (ロックン・オン)	ロックン・オン	12	2612
a	623◆	ADLIB	スイングジャーナル社	12	2212
a	829	Audio Accessory (季刊オーディオアクセサリー)	音元出版	4	
a	737	YOUNG MATES MUSIC Player (月刊YMMプレイヤー)	プレイヤー・コーポレーション	12	3620
a	627	HI VI (ハイヴィ)	ステレオサウンド	12	3444
a	715	R&R NewsMaker	ビクターエンタテインメント	12	1888
a	784	Guitar magazine	リットーミュージック	12	3218
a	803	AV Review (AVレビュー)	音元出版	6	
a	523◆	音楽の友	音楽之友社	12	4416
a	525	レコード芸術	音楽之友社	12	5624

a	783	Keyboard magazine	リットーミュージック	12	2626
c	659	LATINA (ラティーナ)	中南米音楽	12	1232
d	524	stereo (ステレオ)	音楽之友社	12	4136
d	766	MUSIC MAGAZINE	ミュージック・マガジン	12	4124
114		写真・カメラ	8	4 (a 3	c 1)
a	771	◆月刊カメラマン	モーターマガジン社	12	2728
a	526	CAPA (キャパ)	学習研究社	12	2176
a	684	日本カメラ	日本カメラ社	12	4510
a	503	アサヒカメラ	朝日新聞社	12	4440
115		時事	4	1 (a 1)
a	548	月刊官界	行研	12	3102
116		文芸・文学	21	15 (a 8	d 7)
a	540	野性時代	角川書店	12	5518
a	744	文学界	文芸春秋	12	4304
a	834	中央公論文芸特集	中央公論社	4	
d	619	新潮	新潮社	12	5200
d	691	月刊ずいひつ	日本随筆家協会	12	1072
d	826	季刊文学	岩波書店	4	
d	831	文芸	河出書房新社	4	
d	567	群像	講談社	12	5176
d	724	kaien (文芸雑誌海燕)	福武書店	12	3512
d	596	すばる (昴)	集英社	12	4432
a	591	◆現代詩手帖	思潮社	12	2984
a	538	◆俳句	角川書店	12	4764
a	725	俳句研究	富士見書房	12	3056
a	655	短歌研究	短歌研究社	12	2590
a	536	◆短歌	角川書店	12	3994
117		美術・芸術	24	9 (a 7	d 2)
a	509	一枚の絵	一枚の絵	12	1932
a	620	◆芸術新潮	新潮社	12	1904
a	719	BT 美術手帖	美術出版社	12	3782
a	643	小さな蕾	創樹社美術出版	12	1968
d	726	atelier (アトリエ)	アトリエ出版社/婦人画報社	12	1744
d	818	デザインの現場	美術出版社	6	
a	806	墨 (すみ)	芸術新聞社	6	
a	838	季刊銀花	文化出版局	4	
a	835	水墨画	日貿出版社	4	
118		科学・自然	8	2 (a 1	c 1)
a	547	◆Newton (ニュートン)	教育社	12	1774
c	504	科学朝日	朝日新聞	12	1682
119A		哲学・法律	2	1 (d 1)

d' 427	ジュリスト	有斐閣	24	
119B	宗教	3	1 (a 1)
a 647	大法輪	大法輪閣	12	3184
120	教育・指導研究誌	7	1 (b 1)
b' 646	TODAI (灯台)	第三文明社	12	1200
121A	学習・受験対策誌 小・中学生	-	-	
121B	学習・受験対策誌 高校・大学生	-	-	
121C	学習誌 その他	2	1 (b 1)
b' 825	留学ジャーナル	ICS 国際文化教育センター	4	
122	語学・学習研究誌	3	-	
123	少年少女誌	1	-	
124	幼児雑誌	-	-	
125A	地域・地方誌	-	-	
125B	タウンガイド誌	1	-	
125C	ミニコミ誌	-	-	
126	メンバー・クレジット誌	-	-	
131A	週刊誌 経済・投資	4	3 (a 1	d 2)
a 206	週刊ダイヤモンド	ダイヤモンド社	52	
d 221	週刊東洋経済	東洋経済新報社	52	
d 266	エコノミスト	毎日新聞社	52	
131B	経営・販売・企業管理・流通	16	4 (a 3	d 1)
a 739◆	プレジデント (PRESIDENT)	プレジデント社	12	3778
a 681	日経 TRENDY 日経ホーム出版社/日本経済新聞社		12	2630
d 545	SUCCESS (サクセス日本語版)	騎虎書房	12	1200
a 833	WiSH PEOPLE MAGAZINE 椎名総合企画/大洋図書		4	
131C	経済・投資	25	8 (a 6	d 2)
a 521	money japan (マネージャパン)	SS コミュニケーションズ	12	1994
a 682◆	日経マネー 日経ホーム出版社/日本経済新聞社		12	1798
a 304	財界	財界研究所	26	
a 554	月刊経営塾	経営塾	12	2192
d 593	月刊実業の日本	実業之日本社	12	2160
d 557	経済往来	経済往来社	12	2148
a 301	経済界	経済界	26	
a 592	実業往来	実業往来社	12	1198
131D	就職・労務・人材開発	1	-	
131E	電気・エレクトロニクス・コンピュータ	26	10 (a10)
a 562	I/O (アイオー)	工学社	12	2332
a 505	ASCII (月刊アスキー)	アスキー	12	7860
a 666◆	My Computer Magazine (マイコンピュータマガジン)	パソコンユーザ利用技術協会/電波新聞社	12	2568
a 546	ざべ (MONTHLY The BASIC ザ・ベーシック)			

		技術評論社	12	2596
a	520	パソコン通信	エーアイ出版	12 1966
a	519	98 magazine	エーアイ出版	12 3242
a	645	C MAGAZINE (月刊Cマガジン)		
		ソフトバンク出版事業部	12	
a	319	ASaHI パソコン	朝日新聞社	24
a	506	MAC POWER (月刊マックパワー)	アスキー	12 5472
a	664	OA ビジネスパソコン	電波新聞社	12 1696
132	広告・宣伝	2	1 (a 1))
a	807	CM NOW (シーエム・ナウ)	玄光社	6
---	(未掲載)	218	15 (a10)	c 2 d 3)
a	804	暮しの手帖	暮しの手帖社	6
a	517	Beppin School (ベッピンスクール)	英知出版	12 1968
a	651	月刊実話ドキュメント	ハロー企画/竹書房	12
a	515	GOKUH (ゴクウ)	英知出版	12 1776
a	769	夜遊び隊	メディアックス	12 2160
a	669	CITY PRESS (シティプレス)	東京三世社	12 1776
a	516	ビデオボーイ (Video BOY)	英知出版	12 2160
a	711	PHP	PHP 研究所	12 1392
c	553	近代将棋	近代将棋社	12 2704
d	718	ビデオ THE ワールド	白夜書房	12 1776
c	544	鉄道模型趣味	機芸出版社	12 1512
a	683	The Ikenobo (ぎ・いけのぼう)		
		華道家元池坊/日本華道社	12	736
a	712◆	別冊 PHP	PHP 研究所	12 1776
d'	325	時の法令	大蔵省印刷局	24
d'	756	保健同人	保健同人社	12 1240

1. 2. 6 選択された雑誌

本調査の対象となった雑誌は以下のとおりである。なお、本調査におけるジャンルも併せて示した。

雑誌名	分類 番号	月刊メディアデータの 分類	本調査における ジャンル
世界	102A	総合誌	総合・文芸
Esquire 日本版	102A	総合誌	総合・文芸
現代	102A	総合誌	総合・文芸
宝石	102A	総合誌	総合・文芸
文藝春秋	102A	総合誌	総合・文芸
太陽	102A	総合誌	総合・文芸
月刊カドカワ	102B	娯楽・読物	総合・文芸

歴史読本	102B	娯楽・読物	総合・文芸
小説新潮	102B	娯楽・読物	総合・文芸
月刊BIG tomorrow	102B	娯楽・読物	総合・文芸
Begin	102B	娯楽・読物	総合・文芸
問題小説	102B	娯楽・読物	総合・文芸
日経アントロポス	102B	娯楽・読物	総合・文芸
マダム	103	女性総合誌	女性・服飾
with	103	女性総合誌	女性・服飾
MORE	103	女性総合誌	女性・服飾
LEE	103	女性総合誌	女性・服飾
すてきな奥さん	103	女性総合誌	女性・服飾
SAY	103	女性総合誌	女性・服飾
家庭画報	103	女性総合誌	女性・服飾
婦人公論	103	女性総合誌	女性・服飾
FIGARO japon	103	女性総合誌	女性・服飾
婦人画報	103	女性総合誌	女性・服飾
ESSE	103	女性総合誌	女性・服飾
ミセス	103	女性総合誌	女性・服飾
25ans	106A	女性ファッション	女性・服飾
Soen	106A	女性ファッション	女性・服飾
MEN'S CLUB	106B	男性ファッション	女性・服飾
マフィン	107A	家庭誌	実用
栄養と料理	107B	料理・食品・食堂・喫茶	実用
新しい住まいの設計	107C	ハウジング・インテリア・ ガーデン	実用
ベビーエイジ	107D	赤ちゃん・育児	実用
安心	107E	保健衛生・医学・年金・老 後生活	実用
旅	108A	旅	趣味・娯楽
旅行読売	108A	旅	趣味・娯楽
GOLF digest	109A	スポーツ ゴルフ	趣味・娯楽
Tennis classic	109C	スポーツ テニス	趣味・娯楽
Ski Journal	109D	スポーツ 登山・ハイキン グ・スキー	趣味・娯楽
山と溪谷	109D	スポーツ 登山・ハイキン グ・スキー	趣味・娯楽
BE-PAL	109F	スポーツ その他	趣味・娯楽
優駿	109F	スポーツ その他	趣味・娯楽
月刊バスケットボール	109F	スポーツ その他	趣味・娯楽
Volleyball	109F	スポーツ その他	趣味・娯楽
CAR トップ	110A	自動車	趣味・娯楽
月刊自家用車	110A	自動車	趣味・娯楽

CAR Graphic	110A	自動車	趣味・娯楽
Daytona	110A	自動車	趣味・娯楽
モーターサイクリスト	110B	オートバイ	趣味・娯楽
囲碁クラブ	111A	趣味 囲碁・将棋	趣味・娯楽
将棋世界	111A	趣味 囲碁・将棋	趣味・娯楽
猫の手帖	111B	趣味 ペット・愛玩動物	趣味・娯楽
つり人	111C	趣味 つり	趣味・娯楽
ラジコン技術	111D	趣味 無線・模型	趣味・娯楽
Airline	111F	趣味 航空	趣味・娯楽
天文ガイド	111H	趣味 その他	趣味・娯楽
パチスロ必勝ガイド	111H	趣味 その他	趣味・娯楽
歌劇	112B	芸能・演劇	芸術・科学
音楽の友	113	音楽・楽器・レコード	芸術・科学
ADLIB	113	音楽・楽器・レコード	芸術・科学
Swing Journal	113	音楽・楽器・レコード	芸術・科学
カメラマン	114	写真・カメラ	芸術・科学
短歌	116	文芸・文学	芸術・科学
俳句	116	文芸・文学	芸術・科学
現代詩手帖	116	文芸・文学	芸術・科学
芸術新潮	117	美術・芸術	芸術・科学
Newton	118	科学・自然	芸術・科学
プレジデント	131B	経営・販売・企業管理・流通	実用
日経マネー	131C	経済・投資	実用
My computer magazine	131E	電気・エレクトロニクス・コンピュータ	実用
別冊 PHP	132	広告・宣伝	実用

1.3 調査の経緯と担当者

当調査は、1993年度に研究課題「言語計量調査—現代雑誌の用字—」（1993年度～1996年度）のもとで国立国語研究所言語体系研究部第三研究室によって開始され、1997年度からは研究課題「日本語の変化予測についての基礎的研究」の一環として実施されたものである。1999年度より研究課題「現代雑誌200万字言語調査」（1999年度～2000年度）のもとで言語体系研究部第一研究室、同第二研究室との共同研究となり、2001年度の独立行政法人化と組織変更に伴い、研究開発部門第一領域の研究課題「現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築」における共同研究となっている。

1993年度以降、現代雑誌に関する調査に伴い、調査対象とする雑誌を選定し、購入した雑誌のページ数等の確認と雑誌についての情報整理を進めた（1.2参照）。1995年度より誌面からサンプル箇所抽出を開始した（1.4参照）。1999年度、研究課題の再構築をするにあたり、雑誌90誌の調査で対象とした本文のほぼ2倍に

当たる延べ200万字、雑誌数にして70誌をサンプル抽出対象と定めて、本文の抽出を継続した。2000年度には、サンプル箇所抽出を完了し、そのデータの整備を行った。2001年度現在、抽出されたデータの最終調整を終え、「共通基礎データ」を完成させ、それを基に文字・用語などに関する分析が進められている。

調査の担当者は、以下の通りである。

1993年度－1996年度 言語計量調査「現代雑誌の用字」

言語体系研究部第三研究室	石井 久雄
	笹原 宏之 (1996年度)
言語体系研究部長	中野 洋

1997年度－1998年度 特別研究「日本語の変化予測についての基礎的研究」の一環（この研究課題は1995年度から実施されていて、そこに組み込まれた）

言語体系研究部第三研究室	笹原 宏之
	石井 久雄 (1997年度)
	小沼 悦 (1998年度)
言語体系研究部長	中野 洋 (1997年度)
	相澤 正夫 (1998年度)

1999年度－2000年度 特別推進研究「現代雑誌200万字言語調査」

言語体系研究部第一研究室	山崎 誠
	鈴木美都代
第二研究室	石井 正彦
	柏野和佳子
	加藤 安彦 (2000年度)
第三研究室	笹原 宏之
	小沼 悦
言語体系研究部長	相澤 正夫

2001年度-2005年度 研究開発部門第一領域研究課題

「現代日本語における書き言葉の実態解明と雑誌コーパスの構築」の一環

研究開発部門第一領域	加藤 安彦 (2002年度まで)
	山崎 誠
	笹原 宏之 (2004年度まで)
	高田 智和 (2005年度)
	小沼 悦
研究開発部門長	相澤 正夫

ここに報告する漢字表等は、2001－2004年度に、主として研究開発部門第1領域（山崎・小沼・笹原）が担当した調査にかかわっている。

1.4 調査の方法

この調査研究は、雑誌から標本を抽出し、その言葉を検討することとしている。雑誌の本体がどこにあるとするか、そこから標本をどのように確定したか、ということ、ここに記す。

1.4.1 標本及び抽出比率

標本は大きさを $1/16$ ページの面積とし、抽出比率を $1/128$ とした。この標本の大きさ及び抽出比率は、次の概略の値を参照したものである。

- ・現代雑誌九十種の用語用字 第一分冊 総記および語彙表 国立国語研究所報告 21 (1962 年)
標本の大きさ $1/8$ ページ 抽出比率 $1/227 - 1/681$, 漢字については $1/340$
- ・雑誌用語の変遷 国立国語研究所報告 89 (1987 年)
標本の大きさ $1/10$ ページ 抽出比率 $1/42 - 1/167$, 平均して $1/112$

標本の大きさは、単純にページの大きさに対する面積比率として定める。従来 of 調査研究では、言わば、ページ中の言語の量を見てそのある比率を採る、という手順によってきたが、この雑誌言語計量調査では、単純な面積比率による。

$1/16$ ページというのは、ページを縦横それぞれ 4 分して得られる大きさである。標本の大きさを単純な面積比率とするのは、雑誌全体にわたる記事の構成の傾向を反映するものである。すなわち、コラムを集めて本文を構成し、そのコラムの連続の順序が明らかでない、そのような記事が、種類の雑誌に少なくない。そのレイアウトが、見開き 2 ページにわたっていることもある。

抽出比率が $1/128$ というのは、標本を 8 ページに 1 個採ることを意味する。

標本の抽出は、調査対象雑誌の全体、あるいは一誌ごとに行うべきであろうが、実際の作業及び検査などの効率のために、1 冊ごとに行う。すなわち、1 冊のページを数え、 n ページであるならば、標本を $n/8$ 個採る。

n ページでは標本となりうる部分が $16n$ 個あるが、そのうちのどれを実際に標本とするかは、コンピュータ = ソフトウェアによる擬似乱数によって、無作為抽出として決定した。従来 of 調査研究では、乱数表を用いる手間が掛かりすぎるために、また、完全な追試が困難であるために、実質的に等間隔抽出によっていたが、この雑誌言語計量調査では、コンピュータを使用して、無作為抽出を実施した。

1.4.2 調査単位

本調査で用いた調査単位は、雑誌九十種調査のときと同じ β 単位である。次ページ以降に、単位分割のための規則を『現代雑誌九十種の用語用字』から再録した。したがって、23 ページから 30 ページに現れる「今回の調査」というのは、雑誌九十種調査のことであるので注意されたい。

本調査では、できるだけ以下の規則にのっとして作業を進めた。しかし、雑誌九十種調査の頻度1までの結果を示した『現代雑誌九十種の用語用字全語彙・表記フロッピー版』（三省堂、1997）と照らし合わせると、規則の運用にやや不統一が見られるところもあったため、本調査ではなるべく統一を図った。

なお、見出し語を決めるための作業規則も雑誌九十種調査における考え方を踏襲したが、紙数の関係でここに再録することは省略する。

【再録】

3・2 調査単位の句切り方

われわれは調査する本文を句切って何らかの単位を切り出す訳である。今回の調査単位には、総合雑誌の調査の時と同様に「β単位」を採用した。今回は、前回と違って、助詞・助動詞も含めて調べた。そのため調査単位を規定する述べ方に関する面だけ改めた方が、都合のよい場合も出て来た。しかしこれは実質的な変更ではない。以下にβ単位を切り出す規則を述べる。

3・21 方針

β単位は次に述べる「最小単位」を基礎として、操作的に定義される：それは最小単位が、ある条件を満たす形で結合した（または結合しない—これは0回結合と考える）結合体である。

まず「結合」の概念について述べよう。これは大まかに言えば、文節内での言語要素の結びつきの事である。更に、その結びついた一まとまりが意味・機能の上でも一まとまりになるという条件がつく。

次に「最小単位」について。これは、現代語（調査対象に使われている言語）として意味を担っている最小の言語単位をいう。総合雑誌調査では「語源単位」と呼んだが、「まど」や「なべ」を分割するののかという誤解が起こるのを防ぐため、呼び名を改めた。最小単位の認め方は次のようにする。

和語の場合。「母親」「青白い」「読み終わりました」はそれぞれ「母」「親」、「青」「白い」、「読み」「終わり」「まし」「た」と分割しても、それぞれの部分が意味を持つ。かつそれ以上分割すると意味が分からなくなるか、この結びつき全体での意味とは無関係になるかする。従ってこれらそれぞれを最小単位とする。また、前にある語と融合した助詞は、共時的に還元できる限り還元する。

例： わたしゃ→わたし - は 悪か（ない）→悪く - は
行きゃ（しない）→行き - は 行きゃ（いいのに）→行け - ば

例外： 接続助詞「て」が次に続く「いる」「おく」「しまう」「おいで」等と融合した「てる」「とく」「ちまう」「といで」等からは、「て」を切り出さない。

なお、以下の各項にあげる接辞・助詞・助動詞は、一最小単位とせず、前または後ろの部分に含めて考える。

〔次の接辞〕 形容詞・形容動詞などにつく「さ」「げ」

助数詞的な「たり／とり」(人)「か」(日)「つ」(個)
いわゆる延言の「く」

[複合語の内部にある助詞・助動詞]

例： 板の間 茶の湯 男の子 合いの子 知らん顔 ろくでなし
お気に入り

[前に立つ要素がその助詞・助動詞に限って結びついたり、その結びつき全体の意味が著しくずれたりした場合の、その助詞・助動詞]

例： あるいは または こんにちは〔あいさつ〕 更に ことに
ならびに 総じて 大して 大した しめた！
どうか〔依頼〕 それとも

漢語(字音語)の場合。原則として漢字一字で表わされる部分を一最小単位とみなす。「社会」「運動」「新国家」はそれぞれ、「社」「会」、「運」「動」、「新」「国」「家」という二ないし三個の最小単位から成ると扱う。ただし漢語には現代語として分割し難いものもあるので、上記の扱いを機械的にあてはめる訳には行かない。それで次のようなものは全体を一最小単位とした。

例： 胡麻 沙汰 獅子 微塵 味噌 無駄 留守 綺麗 林檎

梵語やヨーロッパ語を漢字で音訳したのも、当然全体で一最小単位である。

例： 阿弥陀 倶楽部 型録

漢語以外の外来語の場合。原語で一単語となりうるものを一最小単位とした。「スケッチブック」「ウォーミングアップ」はそれぞれ「スケッチ」と「ブック」、「ウォーミング」と「アップ」という二最小単位からなる語である。前置詞、冠詞なども一最小単位に数える。例：「ロック・アラウンド・ザ・クロック」。ただし、まれには日本語としては分割不能とみて一最小単位にした「ネクタイ」「クーデター」のようなものもある。

β単位を規定する必要上、最小単位を以下のように分類する。

一般 ……山 人 社 会 動く 広い ピカ また しかし
数 ……一 千 一 二 ; 幾(人) 何(回) 数(十)
付属要素 ……お おん ども 的 がたい (行き) かける
符号 ……イ 甲 A O O = ×
助詞・助動詞…です た ます も から など よ

助詞・助動詞の範囲は、大体普通の文法書にいう助詞・助動詞であるが、「だが」「では」「けれど(も)」のように、助詞・助動詞から転化した接続詞も含める。この場合「だが」や「では」は助詞・助動詞の切り方にならって、それぞれ二最小単位とする。また、「アンド(and)」「フォン(von)」「ザ(the)」など、ヨーロッパ語の接続詞・前置詞・冠詞もここに含める。

いわゆる形容動詞の語尾は独立の助動詞（または助詞）と認める。

次のものは、付属要素に助詞・助動詞のついたものとして扱う。

ところ-が ところ-で ところ-か もの-の もの-を よう-だ
ふう-だ（様態・伝聞ともに） みたい-だ

上記の数という分類目の範囲にある「一つ」「ふたり」「みっか」などは、調査単位の認定上、一般の最小単位と同じに扱う。

「何」「幾」「数」が「何十」「幾度」「数万」のように不定の数を表わす場合は、この分類項目に入れる。

「一」「二」なども、数量を表わすことに主眼がなく、他との結合が慣用的であり、かつ全体で一つの決まった内容を表わす場合には、一般の最小単位と同様に扱う。

例： 一応（次郎長）一家 一見 一心 一定 一端 一変 一味 一命
一様 ひと足違 い ひときわ ひとしお ひとしきり ひとまず
二死 二枚目 二墨 ふた子 ふたたび ふたば
三角 三振 三墨 みつどもえ
四海 四季 四球 四捨（五入） 四天王
五臓 五斗米 五輪
六腑 六王 七転 七面鳥（口）八丁
十字（架） 百姓 百草 千載 万一 万物

付属要素は、接頭語・接尾語・形式名詞・補助用言などから成る。その一般的な定義を下すことはむずかしいので、われわれがこの調査で、付属要素とみとめたものすべてをあげることにする。（なお下記で／を入れたものは、その両側の形に同じ見出し語を与えることを予定しているものである。）

【付属要素の表】

1 接頭的要素

お おん おみ み ご

ただし、次のような場合は例外として、あとに続く部分と合わせて一最小単位とする。

例： おいで おかげ お好み（焼き） お手（あげ） おなか おまわり
おやつ 御曹子 御身 み子 みぐし 御殿 御覧
あい〔相成る〕 まかり〔罷出る〕
ミス ミスター ミセス マダム サー（人名につく時、または全体を
人名的にする時）

2 接尾的要素

〔敬称〕 さま さん／はん ちゃん どの／どん 君 うえ〔母上〕 ぎみ〔父君〕
〔複数〕 たち かた／がた ども ら 等 連
〔関係〕 分〔ひとり～〕
どち／とし／どうし

じゅう [うち～] 中 間 内 外 面 辺
 [状態] 的 風 様 状 体 級 式 流 型
 そう [あり～だ, ある～だ] よう [あり～は, ある～だ] かた [考え～]
 みたい だらけ がち すぎ ぶり [男～] ごとし らしい [春～陽気,
 但し「男らしい, 女らしい」は切らない; 助動詞の「らしい」は別]
 めかしい がましい くさい [ボール～たま] ぼい
 がたい づらい にくい やすい よい/いい
 できる 得る 能う かねる [読み～] すぎる [遊び～]
 [変化] めく じみる
 だす かける はじめる きる ぬく とおす つづける おわる
 おおせる つくす はたす そこなう 損ずる つける (習慣の意)
 あう [声を掛け～]
 しな じまい おさめ ついで
 ある [書き～] いる/てる おる/とる てらっしゃる
 ちまう/ちやう/じまう/
 じゃう いく/ゆく/てく くる [降り～]
 [行為] めかす ぶる がる [悲し～, 但し「かわいがる」は切らない]
 する いたす なさる たまう やがる
 おく/とく たる (<テヤル) たげる (<テアゲル) くれる くださる
 [その他] たい れる/られる せる/させる しめる
 ちゅう/ちふ/てふ (<トイウ)
 ずつ あて ごと [田～の月, 丸～食べる] ぐるみ ずく
 くらい/ぐらい ほど (程度の意; 「さきほど」「のちほど」などは別)
 かたがた がて ら だてら
 くせ (に) [そう言った～に] こと [私～このたび; まあ大きい～]
 ところ [言った ～が見られなかった; 言った～でだめだ]
 どころ/それ～か; それ～の騒ぎではない]
 もの/困ります～; 言おう～なら; 言ってみた～の; 言ってやった～を]

注1) [関係] の「中」から「辺」までと, [状態] の「風」から「流」まで,
 および [行為] の「する」は, 一字の漢語について時には付属要素としない。

例: 国内 室外 洋式 証する 信ずる

注2) [変化] の「だす」から「あう」までについて。

1° これらを付属要素とするのは, 動詞のアスペク的な意味をあらわす場合に限る。従って押して出す場合の「おしだす」, 口でかんで切る場合の「かみきる」のようなものにまでは適用しない。「やりだす」「やりかける」のように動詞「やる」に続く時と比べて考えればよい。

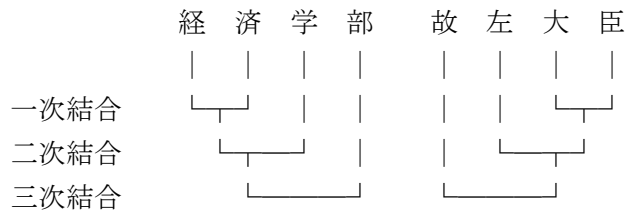
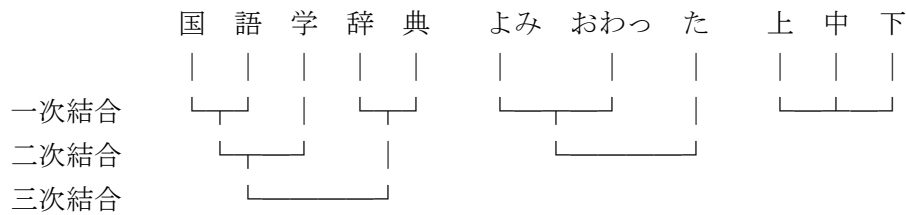
2° これらと自動他動の関係にあるものも, 付属要素とする。

例: かかる はじまる きれる はてる

3° これらの名詞形も同じく付属要素とする。

例: かけ はじめ おわり つけ あい

以上によって、結合の二三の例を示して置こう。



3・22 作業規則

以下の規定は、番号の若いものが優先する。

1 人名・地名は、(最小単位の結合数や音節数にかかわらず) 下記の規定による。

1・1 人名は姓を1β, 名を1βとする。また、通称もしくは雅号・しこ名なども1βとする。

例： |志賀|直哉| |孫|文| |ジャン|コクトー|
明智	左馬介	光晴						
古今亭	志ん生		豊竹	山城	少椽		切られ	与三
若乃花		力道山						

ただし、姓名を共に略して結合した呼び名は、全体を1βとする。

例： |徳球| |エノケン| (参照：|伊藤|忠|)

1・2 行政区画を表わす地名は、「都、府、県、郡、市、区、町、村、丁目、番地」を除いた部分をそれぞれ1βとする。(「北海道」は全体で1β。)

例： |東京|都|中央|区|日本橋|一|丁目|一|五|番地|
 (「日本橋」が地名でなく、橋の名前の場合は|日本|橋|)
 |茨城|県|那珂|郡|東海|村|
 |北多摩|郡| (参照：|北|アフリカ|)

1・3 国や地形などの名前で、類概念を表わす部分は、地名に含めない。

例： [国名] |アメリカ|合衆|国| |ソビエト|連邦|
 [地域名] |中部|地方| |東海|道| |カルフォルニア|州|
 [地形名] |富士|山| |マウント|エベレスト| |利根|川|
 |楊子|江| |十和田|湖| |太平|洋| |東京|湾|
 |九十九里|浜| |アッツ|島|
 [場所名] |銀座|並木|通り| |キングス・クロス|停車|場|

東急 | 祐天寺 | 駅 | (「祐天寺」が駅名でなく、寺の名前の場合は
祐天 | 寺 |)

ただし、一字の漢語の地名(略語も含む)及びこれに相当する「ソ」(「ソビエト」の略)などは、一般の最小単位と同じに扱う。

例: | 米 | 国 | | 英 | 語 | | 中 | ソ | | 訪 | 韓 | | 宋 | 人 | | 北 | 米 |
| 米 | 艦 | 隊 | | ソ | 同 | 盟 |

2 § 3・2 1 の分類で「数」に属する最小単位は、次のように扱う。

2・1 他の最小単位との間を句切る。

例: | 第 | 三 | 番 | | 十 | 坪 | | 五 | 時 | 七 | 分 |
| 四 | 分 | の | 一 | | 何 | 人 | | 幾 | 年 | | 四 | 五 | 回 |

2・2 数の間どうしの結合は、一、十、百、千の称えをとる桁ごとに1βとする。「万」「億」など 10^4 (注3)の累乗を表わす最小単位は、それだけで1βとする。小数部分は一括して1βとする。

(CD-ROM 版注3) 10 の4乗の意味。テキストファイルでの便宜的な表記。

例: | 二 | 十 | 五 | 億 | 八 | 千 | 百 | 三 | 万 | 六 | 十 | 七 | | 十 | 五 |
五	十		何	百		数	千		数	万		八	万		
二	三	の	問	題		二	三	十		二	十	三	の	問	題
三	分	の	二		二	十	二	分	の	十	七				
0	.	5		3	.	1	4	1	6		1	.	8	億	
二	メ	ー	ト	ル	六	十	五								

3 付属要素、符号、助詞・助動詞は、一最小単位を1βとする。

例: [付属要素] | お | 話 | | 御 | 本 | | お | か | あ | さん |
犬	ども		コ	ー	ト	内		ス	ー	プ	風				
ど	ろ	だ	ら	け		言	い	に	く	い		作	り	得	る
春	め	く		読	み	終	わ	る		書	き	損	じ		
行	き	し	な		寒	が	る		食	べ	た	が	る		
リ	ー	ド	す	る		身	ぐ	る	み		遊	び	が	て	ら
ほ	し	い	く	せ	に										

例外: 「(さ)せられる」「しめられる」はこの結合を1βとする。

なお「する」に対する「させる」「される」は、それぞれこの全体を1βとする。

例: [符号] | イ | 図 | | 甲 | 表 | | × | 町 | | ○ ○ | 社 |
| N a | C 1 | [化 | 学 | 記 | 号] | H | 2 | 0 |

例: [助詞・助動詞] | で | き | ま | し | た | か | | 雨 | だ | ろ | う |
| あ | な | た | に | は | 見 | せ | ら | れ | ま | せ | ん |

4 一般の最小単位は、次の規則による。

4・1 次の場合、三最小単位以上の結合でも全体を1βとする。

- i) 個々に独立しては使われない最小単位の並列。
 例： |松竹梅| |京阪神| |花鳥風月| |春夏秋冬|
- ii) ローマ字を並べた略称。
 例： |PTA| |NHK| |YMCA|
- iii) 句切るべき位置に問題のあるもの（|○○|○|か|○|○○|が決し難い場合）。
 例： |道祖神| |暴風雨| |赤裸々|
 |都区内|（東京～均一回数券） |悲喜劇|
- iv) 第二次結合まで有する略語のうち、その二次結合をしている前部分を置き換えて他の類似（下部）団体をさすことがないもの。
 例： |全医労| |全銀連| |中政連| |東通工| |日経連|
- 注意：上記の置き換えによる略語でさす団体があれば、更に句切る。
 例： |全|学連| |中|労委|
 |日|教組|（「都|学連」「地|労委」「県|教組」などがある。）
- v) 以下にあげるそれぞれ。（下記は今回の調査に実例のあった範囲であげたものである。）

あいの子 ありのまま 板の間 卯の花 絵の具 男の子 女の子
 鹿の子 上の句 かみの毛 きのこと 気の毒
 木の芽（《～でんがく》の場合だけ） くすの木 木の葉 木の間
 木の実 さいの目 すの子 大の字 竹の子 茶の間 茶の湯
 手のひら 床の間 菜の花 二の足 二の次 二の舞 ひのき 日の出
 日の丸 まのあたり 身の上 身の代 矢の根 山の手 世の中
 知らん顔 知らぬ気 人でなし ろくでなし お気に入り
 負けずぎらい 食わずぎらい
 有頂天 有耶無耶 寒冷紗 檢非違〔～使；～の別当〕 皇太子
 殺風景 集大成 浄瑠璃 沈丁花 赤十字
 大丈夫（形容動詞の場合だけ） 大統領 土壇場 不可解 不可決
 不可侵 不可分 不可思議 不思議 雰囲気 未曾有 無邪気 立金花
 一生涯 一辺倒 一目散 一文字〔口を～に結んで〕 二枚げり
 二枚目 三枚目 四天王 五斗米 七面鳥 八重垣
 十文字〔腹～にかっ切る〕 十二指腸 十二分 十八番（おはこの意）

4・2 次の場合は一最小単位を1βとする。

- i) 建物・会社・店・学校・乗り物・団体・宗派・流派・新聞・雑誌・商品・人種・民族・言語の名前で、種差を表わす部分が一最小単位である時、その部分。
 例：〔建物・会社・店〕 |ポプラ|社| |さくら|屋|
 |バー|アムール|
 〔学校〕 |オックスフォード|大学|
 〔乗り物〕 |かもめ|丸| |つばめ|号|
 〔団体〕 |すみれ|会| |オリーブ|クラブ|
 〔宗派・流派〕 |めしあ|数| |イスラム|教|

〔新聞・雑誌〕 | タイムズ | 紙 | | プラウダ | 紙 | | 実話 | 雑誌 |
| 季刊 | 理論 |

〔商品〕 | たから | ビール | | キヤノン | カメラ |

〔人種・民族・言語〕 | アラブ | 人 | | アイヌ | 人 |

| コマンチ | 族 | | ラテン | 語 | | チュルク | 語 |

例外： 「儒教，仏教，回教，法大，胡人」等，種差を表わす部分が一字の漢語なら，この結合体を1βとする。

- ii) 二最小単位の一次結合体の長さが次の音節数（モーラ数）を越える場合の，それぞれの最小単位： 外来語どうしの結合では七音節；その他の結合では六音節。

その結合体が活用語なら，上記の音節数は，動詞では連用形，形容詞では語幹をもって測る。

例： | ジーゼル | エンジン | | ガソリン | スタンド |
ホーム	グラウンド		マス	プロダクション
オペレーションズ	リサーチ		セメント	がわら
うしろ	スカート		あわて	ふためく
ころろ	はずかしい	(cf.	ころろぐるしい	

- iii) 個々に独立しうる最小単位の三つ以上の並列。

例： | 衣 | 食 | 住 | | 都 | 道 | 府 | 県 | | 米 | 英 | 仏 | ソ |
| 松 | 竹 | 梅 |

- 4・3 §3・21で「一般」という分類目に入れた最小単位二個の一次結合は1βとする。

例： | 問題 | | 主義 | | 国民 | | 経済 | | 人々 | | 組合 |
青空		押し出し		首切り		それぞれ		出会う		
引っ越す		心細い		ラブ・シーン		ビヤ・ホール				
カラー・スライド		職場		口絵		急ピッチ				
ゲリラ戦		赤ランプ		参院		春闘		マス・プロ		
公務	員		出席	率		選挙	規程		繰越	金
兵隊	あがり									

- 4・4 以上の規則によって認められたβ単位の，前または，後ろから順次に結合した一最小単位は，それだけで1β単位とする。

例： | 故 | 尾上 | 氏 | | 中村 | 宅 | | 伊東 | 好み | | 新 | 日本 |
アメリカ	帰り		三	回		第	二十		ナンバー	ワン
五	人	目		うれし	がら	せる				
前	首相	ぶっ	た	態度						
甲	図	上	に							
雨	に	は	なら	ない	だろ	う				
宝くじ	売り		板の間	かせぎ		植民	地	化		
自然	科学	書		文学	部	長		ビヤホール	裏	
大	海がめ		前	会計	課	員		超	高	速度

4・5 他と結合せずに用いられた一最小単位は1βとする。

例： |ああ|寒い| |もっと|ゆっくり|歩け|

以上の規定に従って実際の文章を切った例をあげてみよう。

|絵|や|彫刻|に|起っ|て|いる|抽象|芸術|の|傾向|は、|写真|
や|映画|に|よっ|て|写実|的|な|場所|を|占め|られ|た|こと|か
ら|き|て|いる|だけ|で|は|ない。|現代|の|生活|意識|の|正当|
な|反映|と|し|て、|抽象|画|が|要求|される。|もう|一つ、|日本|
|画|の|こと|に|戻っ|て|いう|と、|人間|の|存在|意識|の|ヨー
ロッパ|人|と|日本|人|と|に|おけ|る|相違|が|現われ|て|いる|
一つ|の|例|と|し|て、|日本|画|の|空間|余白|の|問題|が|ある
。|

|お|料理|の|とり合せ|で|何|か|揚げもの|を|そえ|たい、|魚|
も|肉|も|ない|が、|玉子|なら|ある|と|いう|よう|な|時|に|こ
れ|を|試み|て|ごらん|下さい。|玉子|二|個|に|対し|て|大匙|二
|杯|の|割|で|玉葱|を|みじん|切り|に|し、|から炒め|を|し|ま
す。|

|「やっぱり|そう|でした|の|ね。|あたし、|お|美也|さん|に|
たのま|れ|て、|実|は|あなた|に|逢い|に|ここ|へ|き|た|ん|で
す」|

|「あなた|は|お|美也|を|知っ|て|いる|ん|です|か」|
|さすが|に|目|を|見はっ|て|いる。|
